

2024 年 1 月 30 日

2023 年度聖路加国際大学大学院

看護学研究科課題研究

メンタルヘルス不調により休職する
看護師への職場復帰支援に関する文献検討

A Literature Review on Supporting
the Return to Work for Nurses
who Leave due to Mental Health Problems

22MN009

加藤 容子

要旨

目的：本研究は、メンタルヘルス不調により休職する看護師の職場復帰を促進するための具体的な支援内容を明らかにし、職場復帰支援におけるリエゾン精神看護専門看護師の役割について検討することを目的とした。

方法：メンタルヘルス不調により休職する看護師の職場復帰に関して、メンタルヘルス支援者が行う具体的な支援内容に焦点を当て文献レビューを行った。

結果：電子データベースによる文献検索を行い、11 文献が対象となった。対象文献より職場復帰支援を抽出し、介入時期別に分けて支援内容を整理した。休職前の支援では【師長がメンタルヘルス不調に気づき、メンタルヘルス支援者が医師へつなげる】【事業場外資源との関係性の把握や新たな相談窓口を紹介する】【病状や休職の必要性について対象者が理解できるように話し合う】【休職中の過ごし方や、職場復帰後までサポートすることを説明する】【所属部署や家族に体調の不調の理解を得る】の категорияが抽出された。休職中の支援では【回復状況に合わせ、焦らずに十分な休息がとれるよう説明する】【面接や電話連絡により、体調の変化や復職時期の意向について確認する】【主治医とメンタルヘルス支援者、事業場外資源の役割を明確にし、復帰に向け情報交換を行う】【他言しないことを約束し、対象者が安心して語れる場を提供する】の категорияが抽出された。職場復帰直前の支援では【対象者と共に、適応できる配属先、業務量・業務時間を検討する】【職場復帰に向け、対象者・主治医・メンタルヘルス支援者がそれぞれの思いや情報を話し合い、相談を重ねる】【復帰に向け、復帰プランの作成や対象者の体力づくり、自主訓練を勧める】の категорияが抽出された。職場復帰後の支援では【職場復帰支援プログラムや対象者の体調をもとに配属先や業務配慮を検討する】【面談やラウンド、スタッフの協力を通じて対象者の体調を確認する】【メンタルヘルス支援者がかけ橋となり、対象者の就労について話し合う】【配属先スタッフの理解が得られるようスタッフを労い相談に対応する】の категорияが抽出された。

結論：休職の前に病状の理解や休職の必要性について、話し合う段階を丁寧に行うことは、対象者が納得して休職に入ることを可能とし、治療に積極的に取り組むことにつながる支援となる。また、『回復状況に沿った休息の取り方』について、対象者が理解することにより、効果的な療養期間につながることを示された。さらに、メンタルヘルス支援者が他支援者とのかけ橋となることで協力体制がスムーズとなり、職場復帰支援が促進されることが考えられた。リエゾン CNS は、対象者だけでなく組織ラインを支持的にサポートしており、管理者が考える組織運営と対象者の職場適応の両面を考慮し、看護師の職場復帰支援を促す役割があることが示唆された。